

【様式①】令和4年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立木田小学校
校長名 青木 秀樹

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
学校・家庭・地域との協働による指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材を活用した学習活動。 ・新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、PTAや親児クラブと連携した、児童会の「あいさつ運動」を進める。 ・今年度より、市民運動会と合同で「木田ふれあい運動会」を開催するため、地域との連携を図る。 ・児童の参加も多く、地域の関心も年々高まっている人権教育の柱「えがおキャンペーン」の「いじめ防止キャラクター作り」がよい流れとなっているため継続し、さらに学校と地域が一体となって児童の人権感覚を育てる。 ・地域の障害者福祉施設との交流やその他の施設との交流を継続する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材の支援を受け、3年生が「木田の歴史」、6年生が「奈良、京都について」学んだり、低学年が馬頭琴演奏を聞いたりすることができた。また、読み聞かせや校豆栽培支援、焼き芋大会の支援を受け、充実した体験や学びを進めることができた。 ・児童会を核とした「えがおキャンペーン2022」の活動に、児童会が中心となって主体的に取り組み、呼びかけ、いじめをなくすためのキャラクターやポスター、標語応募に多くの児童が参加した。また、人権意識の高揚を図ることができた。 ・「木田ふれあい運動会」開催に向け、児童が考えたスローガンに対し、地域と学校が一体となって取り組むことができた。 ・地域の高齢者や障がいのある方との交流をもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「えがおキャンペーン2022」の活動では、児童が主体的にキャンペーンに参加する姿があり、この活動の意義や価値が定着しつつある。今後も継続するとよいが、形骸化することなく、「いじめをなくす」「ひとりひとりを大切に」という、本キャンペーンの根本が見失われないような工夫も必要である。 ・地域で「子どもたちのあいさつが気持ち良い」という声も聞く一方で、「声が小さい」という声もある。児童からあいさつを広める主体的な取り組みがさらにできるとよい。 ・「木田ふれあい運動会」では、成果も課題もあつたが、児童は久しぶりの運動会を充実した活動にすることができた。さらに、地域と一体となった運動会やその取り組み方について、工夫改善していけるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校が一体となったあいさつ運動を展開できるようにしていく。まずは、児童会や高学年などが主体的に全校へ広めていくような流れができるようにする。 ・人権教育の柱である「えがおキャンペーン」のキャラクターやポスター、標語作りは、児童の参加も多く、地域の関心も年々高まってきている。一方で、「選ばれることに主眼が置かれるようになっていくので、本来の意義や価値について、再度考えさせたり、キャンペーンの取り組み方を工夫させたりする。学校と地域が一体となって児童の人権感覚を育てていく場を設定する。 ・地域の障害者福祉施設との交流やその他の施設との交流も継続していく。
学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた社会に開かれた教育課程の編成と実施	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度まとめた、各学年のICT活用能力の「タブレットの活用表」を、本年度はさらに活用能力を高めるように指導をつなぐ。 ・「命の尊厳」「生き方の探求学習」「自己肯定感を育む」特別支援教育の視点を取り入れた教育を推進していくことを学校課題の中心に据え、いじめ防止の観点を中心に踏まえた教育課程を編成する。 ・新リサイクルセンターと連携を重視し、「総合的な学習の時間」を中心に、SDGsの要素を取り入れた学習を仕組む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な教科や活動で、タブレットを、考えづくりや交流など、適宜有効活用することができた。また、文章で表現することが苦手な児童が、タブレットの音声機能や撮影機能を使った発表をするなどできた。 ・研究主題を「仲間と関わり合い、自己肯定感・自己有用感を高め合う児童の育成～生き方の探求学習を通して～」とし、教科横断的な学習計画の工夫、仲間と学び合い関わり合う学習活動の工夫をしてきた。 ・見学と、リサイクル材工作を展示するため、全学年が新リサイクルセンターに行くことができ、SDGsについて、学年の発達段階に即した活動や学びを進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出席停止や学級閉鎖などでは、児童の学びを進めるためにオンライン学習をしたり、スタディ・サリを用いて学習をしたりすることが定着していることがよい。また、ICTの活用能力が低学年でも非常に高いことも評価できる。 ・地域に新リサイクルセンターがあることを有効に使って、児童一人一人が「ごみや環境問題」について、SDGsについて興味関心をもって取り組んでおり、価値のある学習である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度まとめた、む各学年の発達段階に即したICT活用についての「タブレットの活用表」を今年度、さらに見直し加筆したりして次年度に繋ぐ。 ・研究主題は引き続き「仲間と関わり合い、自己肯定感・自己有用感を高め合う児童の育成～生き方の探求学習を通して～」とし、「命の尊厳」「自己肯定感を育む」教育を推進していくことを中心に据えて教育課程を編成していく。 ・自己肯定感・夢を育てる教育の充実を図り、将来について考えたり体験したりする学習の工夫・改善を図る。 ・150周年記念行事が「夢に向かって育つ」ことを核としたものとなるよう、活動を仕組
幼保小連携や小中一貫の考えのもと、地域人材を活用した学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園や幼稚園の幼児と、低学年や高学年の家庭科の学習等において、遊びで交流する機会をもつ。 ・保育園・幼稚園へ小学校の紹介の手紙を送ったり、中学校の部活動紹介の様子を視聴したりするなど、交流方法をさらに工夫を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保からの引継ぎが確実に行われている。一方で、児童と園児の交流は、今年度もほとんどできなかった。 ・運動会や親児の会(PTA)主催の行事で、中学生が主体的に活動に参加してくれたため、児童のよい模範になってくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園児が小学校の芝生の校庭を散歩コースに組み混んでいたことがあり、少しではあるが小学校児童との交流もできたのがよかった。 ・中学生がPTA行事に進んで参加する姿は、これからの児童にとつての憧れとなる姿であるため、継続できるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であったためできなかった幼保との交流が再開できると考え、改めて交流できる場や活動の見直しや工夫を図る。 ・木田ふれあい運動会など、小中が同じ場で活動する機会をとらえ、地域の一員としての自覚をもって活動できるようにしていく。
教育環境と学校財務環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力を生かした学習支援を、学校のニーズに応じて位置付け、学習困難な状況に対応した効果的な学習を展開する。 ・農業支援や読み聞かせボランティアによる支援を効果的に仕組む。 ・防災訓練プログラムと地域・学校合同運動会について、協働して開催に向け準備を進める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校の共同開催による「木田ふれあい運動会」に向けて、準備を計画的に進めることができた。次年度以降も同じように共同開催が決定した。 ・学校運営協議会、防犯パトロール、学習支援や読み聞かせなど、地域ボランティアとして協力くださった方々を30人以上招いて、2年ぶりに「ふれあい感謝の会」を開くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「木田ふれあい運動会」では、役割分担、プログラムなど課題はあるものの、概ね成功させることができた。次年度以降も同じ形で開催するが、今回の課題については、引き続き検討を重ねていく。 ・地域には、様々な経験を積んだ方や知識のある方が多くいる。こういった方々を有効に活用できるよう、計画的に活動を仕組めるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな地域人材の活用のため、学校運営協議会、支援推進委員会の助言を受け、より多く地域の協力を得られるよう計画を進める。 ・令和5年11月に開催される、地域の防災訓練への参加について、児童の参加の仕方等、地域とともに計画を立てる。
災害、事故、感染症、生徒指導事案に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室の開催、防犯ブザー・自転車点検、関係機関と連携し、安全・安心な生活を生み出す。また、ヘルメット着用や保険加入の努力義務について、PTAと連携した啓発活動を行う。 ・防災訓練を地域と連携して実施し、防災訓練プログラムを、学校と地域が協同で開発する。 ・ネットゲームやSNSでのトラブル防止を目的とし、保護者も含めた情報教育を推進する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「おにぎりの日」には、食育とともに、災害時の食について考える機会をもつことができた。また、PTAから防災グッズが配付され、防災に対する意識を高めることができた。 ・高学年が「水害に備える」ための防災授業を受け、避難の具体や、避難所での主体性について考えた。 ・低学年では、地震に備えて、時と場に応じた避難について考えた。 ・年度途中で、大地震の液化化に備えた避難場所の変更を行った。それに対応した「命を守る訓練」を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故の日が続いているのはよいことであり、防犯パトロール隊の協力が大きくなってきている。 ・タブレットの活用が進んでいる中で、視力の低下や姿勢の悪さ、ネット依存など、問題点も聞かれる。引き続きメディアリテラシーの学習機会をもったり、保護者への啓発を行ったりしていきたい。 ・防災訓練が定期的に行われており、避難方法の改善も図られている。時と場に応じた「命の守り方」を引き続き指導したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルメットの着用、自転車の乗り方、安全な登下校など、交通事故に遭わない安全指導を継続する。 ・タブレットの活用の留意点について、児童だけでなく、PTAと連携して、さらなる啓発を続け、安心・安全な活用を進める。 ・多種多様な非常事態についての知識を高め、高学年は避難場開設時に地域の一員として活動できるよう育てていく。 ・地域の防災訓練について、次年度の開催場所が本校体育館であることから、参加の具体について地域と連携して計画したい。